

第4章
社会適応スキルの発達軌跡を
モデリングする
— 潜在成長モデルの基礎 —

2015.03.02 宇佐美慧・荘島宏二郎

本稿は
第6巻AMOS資料
を既知として
解説しています

図4-3
潜在成長モデル

図4-3 分析の準備手順1/2

第6巻1章
Amos資料
目的1参照

1. 伴走サイトよりv07c4skill.savの保存
2. Amosの起動
 - スタートメニューからAmos Graphics
 - あるいは、デスクトップアイコンをダブルクリック

ソフトが起動したら次にパス図の作成を行う

図4-3 パス図の作成手順1/4

①プラグイン→ Growth Curve Model

②ウィンドウ出現 時点数を入力 今回は6と入力

図4-3 パス図の作成手順2/4

①パス図が自動作成 ※自分で描いてもよい

②誤差分散がすべてVarと等値制約が入っている。図4-3のように必要ないときはV1~V6とする

③パス係数が最初時点を0、最終時点を1として、1時点ごとの相対的な変化量を調べる仕様になっている。パス係数を0~5にする。

図4-3 パス図の作成手順3/4

誤差分散の等値制約が外れた

パス係数が0~5になった。 ※パス係数を0~1とするモデルと同値モデルだが解釈の仕方が少し異なる。教科書P78も参照。

まだパス図は未完成!

図4-3 分析の準備手順2/2

第6巻1章
Amos資料
目的1参照

- SPSSデータファイルの指定
 - ファイル→データファイル:v07c4skill.savを指定
- Amosファイルを名付けて保存
 - ファイル→名前を付けて保存:v07c4fig4-3.amwとして保存
- 分析のプロパティ
 - 推定タブで平均値と切片を推定に☑
 - 出力タブで標準化推定値に☑

※上記の作業をパス図の作成より前にやってもプラグイン→Growth Curve Modelの操作ですべてキャンセルされます



図4-3 分析のプロパティ

推定タブの平均値と切片を推定に☑

潜在成長モデルは、平均構造を含む分析なので☑が必要
プラグイン→ Growth Curve Modelの操作でこの☑は自動的に入るが念のため確認

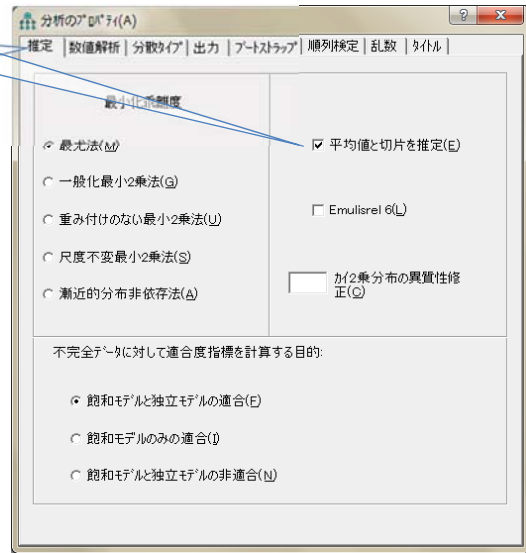
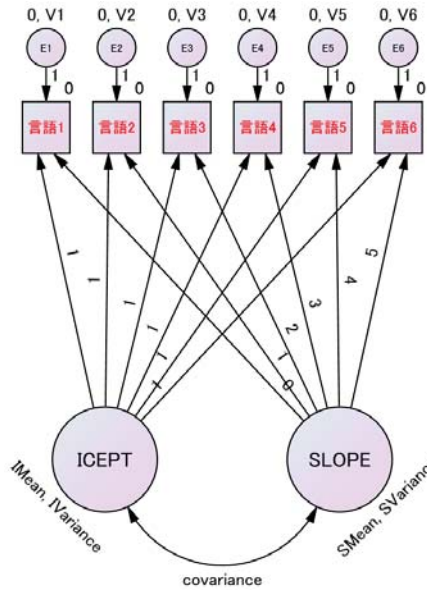
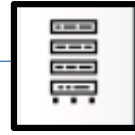


図4-3 パス図の作成手順4/4



データを読み込んだので、変数名を流し込む



パス図完成！
分析

